

第11回 矢祭もったいない図書館

手づくり絵本コンクール絵本大使ご紹介

「自然・友情・心の大切さと、夢と希望がいっぱいつまった手づくり絵本」をテーマに全国から作品を募集いたしました。その中から、最優秀賞受賞者に絵本大使として任命しましたので、ご紹介いたします。手づくり絵本コンクールを中心に「子ども読書の街・矢祭」を発信する活動をします。

絵本大使の入賞作品の3作品をご紹介します。

一般の部 最優秀賞「さぶとかた目のおおかみ」

武田(たけだ) 光弘(みつひろ) さん(長野県安曇野市)



雪崩に巻き込まれてしまった猟師のサブ。気を失い、片目にケガをしていたオオカミの子どもを連れて帰りますが、やがて悲しい別れが…。

オオカミと人間との物語が、版画で描かれている1冊です。

一般の部 最優秀賞「まって まって」

いとう かずみ さん(神奈川県川崎市)



作者が道を歩いていて、偶然耳に聞こえてきた小さい女の子の「かげさん、まってー！！」という言葉から作られました。細やかな切り絵による描写が美しい絵本です。

家族の部 最優秀賞「みんなだいすき」

柴(しば) 茜(あかね) さん・灯(ともる) さん
(長野県上伊那郡箕輪町)



4歳の灯さんが、さまざまな技法を凝らして挑戦した水彩画。豊かな自然や、地域の人たちとの関わりの中で「子どもが伸びやかに幸せに育ってほしい」という思いが表現されています。



? 絵本大使インタビュー

絵本大使のみなさんに、絵本づくりに関するインタビューにお答えいただきました。そのご回答をご紹介します。



たけだみつひろ 絵本大使 武田光弘さん

一般の部最優秀賞

『さぶと片目のおおかみ』作者

1. 絵本づくりのきっかけはなんですか？

東吉野村でニホンオオカミが絶滅して110年を記念した絵本募集の広告をみて、その気になったのがキッカケです。もともとオオカミに興味があつてのめりこみました。幸い入選いたしました。(なお東吉野村は最後のニホンオオカミが捕獲されたところです。)

2. いつから絵本づくりをしましたか？

「東吉野村ニホンオオカミ手作り絵本コンクール」開催の平成28年から。

3. もったいない図書館への応募のきっかけを教えてください。

東吉野村の絵本募集に応募したことでこれはチョイおもしろいなと思い、絵本の募集の情報を集めました。幸い安曇野市の図書館に柳田邦男先生が講演に来てくださり拝聴し、また安曇野ちひろ美術館であべ弘士先生の前画展をみる機会があり、気持ち的に盛り上がりました。そこでもったいない図書館さんに応募しましたが、見事落選。この年の年齢は70歳でした。

4. もったいない図書館への応募回数は？

平成28年に初応募の後、次の年にまさかの最優秀賞をいただき、次の年は特別賞、そして今回再び最優秀賞をいただきました。ですので4回の出品になります。

5. 絵本づくりについてなんでも、フリーで記入ください。

4回応募する間に、富山の大島国際絵本コンクールで銅賞もいただきました。これも矢祭さんがキッカケをあたえてくれたということで感謝してます。昔風の恩返しとか、人のふれあいみたいなものを表現するのが好きですので、作風は昔昔風で現代っ子には受けませんが、年寄りには受けます。今年の矢祭さんの構想もたてています。





絵本大使 いとう かずみさん

一般の部最優秀賞
『まって まって』作者

1. 絵本づくりのきっかけはなんですか？

子どもが通っていた幼稚園の保護者サークルで「手づくり絵本」に出会い、自分の子どもが登場する絵本を作りたいと思って始めました。

2. いつから絵本づくりをしましたか？

16年前からです。

3. もったいない図書館への応募のきっかけを教えてください。

審査委員の柳田邦男先生とあべ弘士先生に作品作りへのアドバイスをお聞きできるかも…と思い応募しました。

4. もったいない図書館への応募回数は？

2回目です。

5. 絵本づくりについてなんでも、フリーで記入ください。

元々は自分の子どもを喜ばせたいと思い始めた絵本作りですが、子どもが大学生になった今もやめられずに続けています。

それは、普段の生活の中で私が「面白いな」「不思議だ」と思った事を絵や文に表し作品にすること自体が楽しいというのが一つ。

そして、その絵本を手にとってくれた子どもたちが、読みながらお母さんと笑いあったり、次々にページをめくってくれる様子を見ると温かく幸せな気持ちになれるからです。これからもぼちぼちと子ども達が「くすっ」と笑ってくれるような絵本を作っていきたいと思います。





しば あかね ともる
絵本大使 柴 茜さん・灯さん

家族の部最優秀賞

『みんなだいすき』作者

(写真提供 長野日報)

1. 絵本づくりのきっかけはなんですか？

大人になって絵本の魅力に気づかされたのは、大学の授業がきっかけです。課題で簡単な絵本を制作しました。

そこから十数年のブランクを経て、自分の中に絵本を通して表現したいテーマが沸き上がってきて、制作につながりました。

『みんなだいすき』は、“例え辛いことがあったとしても、人は決してひとりではない。地域の豊かな自然や周囲の温かな人間関係の中で子育てをしていけるありがたさや、娘と共に笑顔で生きていきたいという願い”を表現しています。

子どもの絵は成長とともに変化していくからこそ、4歳の今だから描ける娘の絵を残したいという気持ちもありました。

2. いつから絵本づくりをしましたか？

【母・茜さん】

大学4年生の頃、絵本に関する授業を受けて興味を持ち、当時自分で制作したこともありましたが、その後東京の出版社に就職し絵本の編集者となってからは、自身の作品をつくることはありませんでした。

退職し地元長野に帰ってから描いた作品が、2017年に「家やまちの絵本コンクール」(住生活月間中央イベント実行委員会主催)で入賞し、絵本の制作はそれ以来で、今回は2作目です。

作品の構想は数か月、実際の製作期間は1か月強でした。

【娘・灯さん】

1歳頃から毎晩読み聞かせをしてきたこともあってか、絵本やお絵かきが大好きでした。自分で紙を本のような形に束ねて、絵本風のものをつくりはじめたのは、3歳の終わり頃からです。

普段絵を描くのに用いるのはクレヨンや鉛筆、ペンなどでしたが、今回初めて水彩画に挑戦しました。





3. もったいない図書館への応募のきっかけを教えてください。

元々このテーマで絵本を形にしたいという思いがあり、制作を始めた頃に、偶然、長野県内にある絵本美術館で、コンクールのポスターを目にしました。

「自然・友情・心の大切さと、夢と希望がいっぱいの絵本をつくってみよう。そして優しい心を世界にとどけよう」というメッセージ、家族の部が設けられていること…。まさに娘と制作している絵本のテーマにぴったりだと感じ、応募を決めました。

4. もったいない図書館への応募回数は？

応募は初めてです。

5. 絵本づくりについてなんでも、フリーで記入ください。

絵本の編集者をしていた頃、天才的な才能を持つ作家、画家の先生との出会いがあり、「絵本を生み出すのはこういう人たちなんだ」と実感。私のような人間が作品をつくるのは無理、自分はいくまでも“絵本好き”であり、編集者が天職だと思っていました。

けれど、その後様々な経験をする中で、自分が人に伝えたい、子どもに残したいと強く願うテーマが沸き上がってきたとき、自身の作品が生まれました。

絵本が大好きで名作を多く知っているがゆえに、良質な絵本とはこういうもの、うまい絵とはこういうもの…という枠にとらわれていましたが、それらに当てはまらなくても、もっと自由に表現していい、それでこそ自分にしかできない作品が生まれる、と今は思います。

やまつりえほんフェスタに娘と参加させていただき、審査員の先生方のお話、子ども司書の皆さんの一生懸命な姿勢、想いのこもったテーマソング、受賞作の読み聞かせ、会場づくりなどの随所に、温かみが溢れていて感動しました。

絵本で町おこし、読育、を掲げる自治体はいくつもあると思いますが、真の意味で、世代や立場を超えて皆さんが絵本を介し心を通わせていると肌で感じられる、矢祭町の絵本大使を務めさせていただけることを、大変嬉しく、ありがたく思っています。

大使としてだけでなく母と子としても、矢祭町の皆さんと共に、絵本を通じた温かな時間を大切にしていけたら幸いです。

この度は本当にありがとうございました。

